

香港国際空港、次のステージへ ―第二ターミナル運用開始―

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

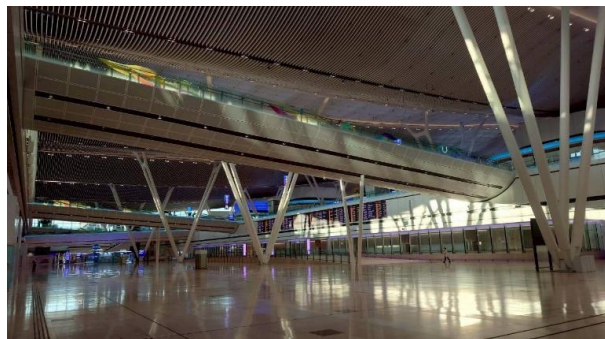
2026年5月、香港国際空港は、航空ハブとしての新たなステージを迎えました。長年にわたる大規模な拡張プロジェクトの一環として建設されてきた第二ターミナルが、いよいよ本格運用開始です。



（筆者撮影：巨大LEDが配置されたチェックインカウンター付近の様子）

第二ターミナルは、特にスマートな旅客体験の提供に力が注がれています。最新のテクノロジーを駆使したチェックインカウンターや自動手荷物預け入れシステムは、手続きの効率化を大きく進め、これまで空港で感じていた煩わしさが大きく軽減されるでしょう。特に注目されるのは、次世代の顔認証技術を利用した保安検査ゲートです。これにより、出入国手続きにかかる時間は大幅に短縮され、利用者は驚くほどスムーズにゲートを通過できるようになります。

この新ターミナルは、主に短距離路線やLCC（格安航空会社）が利用することになります。例えば、香港～福岡便でもよく利用される「香港エクスプレス航空」は、6月10日からチェックインカウンターが第二ターミナルに移行されます。これにより、手狭になっていた第一ターミナルにスペースが生まれ、長距離国際線やビジネス旅客向けのサービス拡張にもつながると期待されています。



（筆者撮影：広大な第二ターミナル。開業直後撮影のため、まだ人はほとんどいません）

香港国際空港、次のステージへ ―第二ターミナル運用開始―

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

こうした変化は、世界からも高く評価されています。2026年3月に発表されたスカイトラックスの「世界の空港ランキング」では、香港国際空港は第4位に選ばれました。特に評価されたのは、保安手続きの効率性、航空インフラの質、旅客サービスの充実度、そして持続的な施設の改善です。

筆者も仕事柄、各国の空港を利用しますが、香港国際空港は移動の経路が極めて分かりやすく、到着ロビーから保安検査まで迷わず到達できる印象です。あくまで個人的な実感ですが、同ランキング一位のシンガポール・チャンギ空港、二位の韓国・仁川（インチョン）空港と比べても、香港国際空港のスムーズさは際立っていると感じます。

香港国際空港の強みは、単に施設の新しさだけではありません。140社を超える航空会社が220以上の目的地を結び、そのネットワークの広さと便数の多さはアジア屈指です。そして、このネットワークを支えているのは、旅客需要だけではなく、むしろその根幹を支えているのは、世界トップクラスの航空貨物輸送能力なのです。長年にわたり、香港国際空港は航空貨物取扱量で世界一という実績を誇ってきました。この圧倒的な貨物取扱量は、単に物流の効率性を示すだけでなく、膨大な数の貨物便が運航されることで、旅客便の路線網の維持・拡大にも大きく貢献しています。この物流ネットワークこそが、香港国際空港の総合的な競争力を支えているといえるでしょう。



（写真：香港国際空港貨物便の様子 出展：香港国際空港管理局公式サイトより）

香港国際空港、次のステージへ ―第二ターミナル運用開始―

大分銀行 香港駐在員事務所 所長
江口 博史

第二ターミナルの運用開始は、香港国際空港が単なる拡張にとどまらず、未来を見据えたスマートな空港としての地位をさらに高めることを意味します。旅客への快適な体験提供と世界有数の航空貨物能力が一体となり、香港はこれからも世界の空の玄関口として、その存在感を示し続けることでしょう。

以上

＜ご参考＞ ターミナル2の様子 (写真は筆者撮影)



(空港の歴史展示スペースも設けられています)



(中国本土の有名コーヒーチェーン店も入居)



(空港T2から新商業施設11SKYS (イレブンスカイズ) に直結する通路)



(11SKYSにはキッズニアも入居予定です)